

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1 地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らしていくことを支えていくサービスとして、事業所独自の理念を作り上げている。	職員で理念を考え、「地域で～」作ったもので、地域で普通の暮らしの支援に努力している		職員採用時、オリエンテーションの時、理念の浸透と地域との交流も積極的に行いたい
2 理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。	玄関・事務室に掲示し理念に基づいた実践をしているが、十分とはいえない。		申し送り・カンファレンス時に共有、再確認していきたい
3 家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる。	理念を玄関に掲示し、理解してもらえるように努めている。地域住民の代表者に対しては、運営推進会議の場で伝えている。又、家族には、家族会開催の時に理解してもらえるようにしている。		地域住民に対しては、広くお便りなどで発信していく。
2. 地域との支えあい			
4 隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている。	散歩中に日常的な挨拶を交わしたり、大家さんから畑で採れた野菜をいただいたりしている		近所の人気軽に立ち寄れるような行事を行ったり、ボランティアを頼むなどの働きかけをする。
5 地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一人として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。	町内会に加入し、清掃・花植えなどに参加し交流に努めている。		地域住民に対しては、広くお便りなどで発信していく予定である。夏祭り・災害訓練にも参加する予定である。
6 事業者の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。	運営推進会議で地域住民の代表者に対して、事業所や職員の役割が還元できる場があれば役に立ちたいと伝えている。		認知症サポーター養成講座や介護教室の開催や気軽に相談できる体制を作りたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7	<p>評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。</p>		<p>全職員に評価の意義や目的を理解できるように機会を作り、徹底していきたい。</p>
8	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。</p>		<p>会議での報告だけでなく、実際に生活場面をみていただく機会を作るようにする。(誕生会・家族会・避難訓練など)</p>
9	<p>市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会を作り、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。</p>		<p>GH関係者が研修会の開催した時など行政の方も参加してくれるので、随時、行って協働していきたい。</p>
10	<p>権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している。</p>		<p>勉強会で学ぶ機会があり、必要と思われる人についてもカンファレンス等で話し合っているが、十分とはいえない。</p> <p>勉強会を行い全職員に周知徹底していきたい。</p>
11	<p>虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがない注意を払い、防止に努めている。</p>		<p>虐待について学ぶ機会があり、防止に努めるため職員同士でお互いの日々の関わり方、介護の仕方について声をかけあい、話し合っている。</p> <p>今後も継続していきたい。</p>
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。</p>		<p>契約時に説明し、署名を得て納得されていると思うが、不十分だったと思うことが時折ある。</p> <p>今後入退居時において、十分な説明と合意形成に努めたい。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
<p>13 運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。</p>	<p>苦情相談箱を置いているが1件もない。意見等が気軽に言えるような環境整備に努めたい。</p>		<p>要望や意見等があった場合迅速に対応していきたい。</p>
<p>14 家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている。</p>	<p>利用者の暮らしぶりについては、個人によって違うが、随時報告・相談している。職員の異動についても報告をしている。金銭について(おこずかい)は、毎月、ご家族に郵送・面会時に確認してもらっている。</p>		<p>今後、ゆっくり時間を確保して報告していきたい。</p>
<p>15 運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情等を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。</p>	<p>家族等の意見、不満、苦情についてはその都度話し合い、運営に反映させている。</p>		<p>迅速な対応をしていきたい</p>
<p>16 運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。</p>	<p>運営に関して意見や提案を言う場がない。</p>		<p>運営等に関して、職員全員が参加する会議を行う。</p>
<p>17 柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保する為の話し合いや勤務の調整に努めている。</p>	<p>行事・事前に受診があった場合柔軟な勤務調整をしているが、特変事、調整が困難で職員に負担がかかっている。</p>		<p>負担がかからないように事前の予測等も含め対応していきたい。</p>
<p>18 職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。</p>	<p>離職や異動などで、利用者やその家族に不安を抱かせている時期もあったが、現在は、安定して異動も最小限にして職場環境の改善に努めている。</p>		<p>今後も継続していきたい。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	<p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。</p>	法人内での勉強会は行っているが、外部研修の機会が前年度まで少なかった。	今年度は、経験・希望・実務に応じた年間研修計画に沿い内・外部研修を積極的に実施している。
20	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワーク作りや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。</p>	管理者会議や外部研修で交流・情報交換を行っている。	交流の場があれば職員全員に知らせ、参加できる機会を作る。東区の管理者会議の中で、交流会の案があり予定している。
21	<p>職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。</p>	働きやすい職場環境整備のために個人面談などを行い取り組んでいる。	今後もより多く職員の意見や考えを表出できる機会を作っていく。
22	<p>向上心をもって働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心をもって働けるように努めている。</p>	実績や勤務状況を把握しており、個人面談行い要望等を聞き業務改善を行っている	管理者が運営者に伝えたり、研修会・勉強会の開催、個人面談を行い向上心が持てるよう取り組んでいきたい。
. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	<p>初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会を作り、受け止める努力をしている。</p>	本人・家族・関係者から話を聞き、職員間で話し合い、どのように受け止め、信頼関係を構築していく検討し努力している。	今後も継続していきたい。
24	<p>初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会を作り、受け止める努力をしている。</p>	家族に対して困っている事、不安な事等聞く機会を作り、情報を職員間で共有している。	今後も継続していきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
25 初期対応の見極めと支援 相談を受けたときに、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	見学・入居相談を受けた時、必要としているサービスがあれば、関係機関につなげていくが、管理者・計画作成担当者しか出来ていない。		全職員ができるように対応していきたい。
26 馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。	入居による環境変化を軽減するために、併設の通所サービス、お泊サービスを利用して入居していただくようにしていく。		入居前に自宅を訪問したり関係を築き、今後も継続していきたい。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27 本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。	本人のできることは何かを見極めながら、洗濯たみや食事の下膳等一緒にしながら関係を築いて学ぶことも多い。		できることを増やしたり、出来そうなことを見出しチャレンジしていきたい。
28 本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	来訪時やケアプランの説明の際、本人・家族の要望等聞き、本人を支えるため家族との関係を大事にしている。		家族と話し合える時間を事前に設定して関係を強化していきたい。
29 本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、よりよい関係が築いていけるように支援している。	支援するよう努めているが、家族によっては理解が得られず関係作りが不十分と思われる面もある。		より丁寧な話し合いのなかで、理解が得られるよう努めていく。
30 馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	努めているが、職員が把握していなかったり継続できないことがある。		本人・家族から聞いて関係継続の支援をしていきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
31	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。	利用者同士の関係が良好になるように職員が介入しながら関わりを持てるよう努めている。		より良い関係が構築できるようにさらなる努力をしていきたい。
32	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。	契約が終了しても家族が訪問してくれることがあり、利用者の移行先に訪ねることもある。		今後も継続していきたい。
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	常に本人の話聞くよう努めてケアプランに反映している。		日常的な会話の中から本人の希望、意向を聞き取り、ケアプランに活かしていきたい。
34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	家族の話、本人の話から把握するよう努めている。		家族の協力も得ながら、一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方の把握に更に努めていきたい。
35	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。	職員間で情報を共有し把握するよう努めている。		心身状態、有する能力の現状を日々確認しつつ、職員間の情報の共有と把握に努めていきたい。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	作成しているが、細かい見直し等が不十分である。		センター方式を用いアセスメント、ケアプランの見直しを行っている。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
37 現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	入院をした際には、退院前に医療関係者、本人、家族、GHの職員と話し合い、本人の病状や心身状態などの現状を把握し、退院当日から現状に即した新たな介護計画に沿って支援している。		今後も継続していきたい。
38 個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	情報を共有し、介護計画の見直しに活かしているが、記録が簡素化しすぎて情報が不十分なこともある。		記録の仕方について見直し、毎月のカンファレンスで話し合い介護計画に活かしていきたい。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
39 事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。	2ユニット間の交流で擬似的な近所づきあいができる。併設している認知症デイサービスに毎日1～2名が参加し、地域の高齢者と交流できる環境にある。		今後も継続していきたい。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
40 地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。	消防、生活保護課職員、生活支援員と協力しながら支援している。		今後も継続していきたい。
41 他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用する為の支援をしている。	歯科医院の医師や衛生士と話し合い、必要性に応じて口腔ケアの管理指導を行っている。		今後も継続していきたい。
42 地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。	2か月に1回運営推進会議を開催、地域包括支援センターの職員が構成員として参加して頂き協働している。		今後も継続していきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
43 かかりつけ医の受診支援 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	訪問看護師やかかりつけ病院の看護師と相談しながら病状や健康の管理をしている。		今後も継続していきたい。
44 認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。	認知症に関する診断や治療を受けられるようかかりつけ医に相談している。		今後も継続していきたい。
45 看護職との協働 事業所として看護職員を確保している又は、利用者をよく知る看護職あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	訪問看護師やかかりつけ病院の看護師に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。		今後も継続していきたい。
46 早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。	病院関係者と情報交換し、早期退院に向け医療機関と連携をしている。		今後も継続していきたい。
47 重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。	終末期における指針は明文化されている。職員間や家族、医療機関と話し合い、方針を共有するよう努めている。		新たに入居された利用者、家族については入居時にアンケート用紙で意向を確認しているが、状況により意向も変化していく事が予想される。繰り返しの話し合いの重要性を認識し取り組んでいきたい。
48 重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	かかりつけ医との連携体制はあるが、職員に不安がある。		今後、ターミナルケアについてのマニュアルの作成と勉強会開催に取り組んでいきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
49 住替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居宅へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住替えによるダメージを防ぐことに努めている。	情報交換を行い住み替えによるダメージを最小限に食い止めるように努めている。		今後も継続していきたい。
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 1. その人らしい暮らしの支援 (1) 一人ひとりの尊重			
50 プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取扱いをしていない。	一人ひとりのプライバシーに配慮した支援ができるように努めている。守秘義務については、職員は周知している。		マニュアルを作成しプライバシーの確保を徹底していきたい。
51 利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。	本人の意向が示せるよう本人に合わせた説明を工夫し支援している。		本人の思いや希望を表せる事が、生活のあらゆる場面にあることを職員が常に意識し支援していきたい。
52 日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	努めてはいるが体調不良で突発的に受診が必要になった時など都合が優先されてしまうこともある。		突発的な出来事が生じても、当日の業務内容を職員間で相談、変更しながら一人ひとりの生活のペースを大切に、ゆとりをもって支援していきたい。
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53 身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。	一人ひとりの好み、その人らしい身だしなみができるように支援している。カラーやパーマなど希望に沿ったおしゃれもできるよう、理容・美容室は馴染みの店を利用している。一人ひとりの心身の状態にあわせて、出かけて行ったり、訪問してもらうこともある。		今後も継続していきたい。
54 食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員がその人に合わせて、一緒に準備や食事、片付けをしている。	可能な限り買い物や調理も一緒に行っている。職員も利用者と同じ食事を一緒に楽しんで食べながら、食べ方の混乱や食べこぼしなどに対するサポートをさりげなく行っている。		今後も継続していきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
55 本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、タバコ等、好みのもを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している。	本人の嗜好に沿った支援をしている。タバコ、お酒も状況に合わせて楽しめる状況にあるが、現在は希望する利用者はいない。		今後も継続していきたい。
56 気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。	排泄パターンを把握できるようチェック板を活用。尿意・便意が喪失してもトイレで排泄できるように声掛けや誘導を行い支援している。		今後も継続していきたい。
57 入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	毎日入浴できる体制にあり、利用者の希望を確認しながら行っている。		職員のローテーションなどで困難な時間帯もあるが、利用者の長年の生活習慣や希望を大切にすることを常に意識していきたい。
58 安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している。	一人ひとりの睡眠パターンを把握し、1日の生活リズムづくりを通した安眠策をとっている。		眠ることだけに注目せずに、数日間の活動や出来事、環境やかかわり方、生活習慣等、本人の眠りに影響していると考えられる点を職員間で検討しながら、安定した眠りが導かれるよう支援していきたい。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
59 役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	利用者一人ひとりが楽しみごとや出番を見出せるよう、場面づくり等の支援を行っている。		自分一人では楽しみごとや役割の場をうまく作れなくなっていくが、手続き記憶や体の力を最大限活かせる場面づくりの支援を行っていきたい。
60 お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	一人一人に応じて支援している。金銭管理が難しい利用者は金庫で管理をし希望があればその都度使えるように支援している。		今後も継続していきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	天候を見ながら買い物や散歩に行けるよう支援している。		地域の様々なものとの触れ合い、季節を体感できるチャンスを作り出そうとする取り組みをしていきたい。
62	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している。	個別には行えていない。		本人や家族にどこへ行ってみたいか尋ねる機会を日常的につくり、把握しながら実現に向けて取り組んでいきたい。
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している。	手紙や電話の支援をしている。		利用者一人ひとりの手紙や電話の習慣、もてる力を確認し直し、プライバシーを守りながら支援していきたい。
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。	気軽に訪問でき、訪問時は居心地よく過せるような雰囲気を作っている。面会時間の定めはない。		今後も継続していきたい。
(4) 安心と安全を支える支援				
65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束を行わないということを全ての職員が正しく認識している。		職員が身体拘束の内容とその弊害をしっかりと認識していきたい。
66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	利用者の自由な暮らしを支え、利用者や家族に心理的圧迫をもたらさないように、鍵をかけないケアに取り組んでいる。		今後も継続していきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
67 利用者の安全確認 職員は、プライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。	職員は常に見守りやすい場所にて、利用者一人ひとりの位置と様子を把握している。		職員が様々な業務を行いながらも、利用者全員の様子をさりげなく常に見まめるように努めたい。
68 注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。	一人一人の状態を十分に把握しながら、安全性の確保から危険がないかの検討をし必要に応じては施錠できる場所へ保管している。		今後も継続していきたい。
69 事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐ為の知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	マニュアルやひやりハット記録を残し、事故防止に取り組んでいるが不安がある。		ひやりハットを活用し、勉強会を行う。
70 急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。	救命救急の講習を受けたり、マニュアルはあるが不安がある。		夜間帯の人手が薄くなる時等の緊急場面を想定した訓練をカンファレンス時等に行っており今後も継続していきたい。
71 災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。	運営推進会議開催時に地域住民の代表者の方々と災害対策について話し合う機会をもっているが、地域住民の方々との関係が希薄で協力を得られるまでには、至っていない。		地域の方々に、認知症GHに対する理解が得られるように努めていくと共に、今後も常識的な近所づきあいや関係づくりを丁寧にしていきたい。
72 リスク対応に関する家族との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。	心身の状態に変化がみられた時には、家族にその都度現状を説明し考えられるリスクも含め、相談しながら対応策を確認し共有している。		今後も継続していきたい。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			

	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
73	<p>体調変化の早期発見と対応</p> <p>一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気づいた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。</p>	<p>必要に応じては、毎日バイタルチェックを行い、常に体調を観察しており必要時主治医に相談している。</p>		<p>利用者は高齢かつ認知症のために、異変がみられた場合は急変が予想される。更に体調の観察を注意深く行っていきたい。</p>
74	<p>服薬支援</p> <p>職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。</p>	<p>職員全員が、利用者個々が使用している薬剤の治療目的、薬の用法や用量を把握しているが副作用の周知までには不安がある。</p>		<p>職員は、利用者が使用する薬の目的や副作用、用法や用量を周知するように徹底していきたい。</p>
75	<p>便秘の予防と対応</p> <p>職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけに取り組んでいる。</p>	<p>便秘予防に配慮して、飲水量を増やす、繊維質の多い食品や乳製品を献立やおやつに取り入れる工夫や排便誘導、運動への働きかけを行っている。かかりつけ医とも相談し取り組んでいる。</p>		<p>今後も継続していきたい。</p>
76	<p>口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れやおいが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている。</p>	<p>必要時は歯科医、歯科衛生師に相談しながら支援している。</p>		<p>今後も継続していきたい。</p>
77	<p>栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。</p>	<p>食事量、水分量を把握しており支援している。体調に応じた食事形態を工夫し提供している。</p>		<p>利用者の嗜好に配慮しながら、今後も継続していきたい。</p>
78	<p>感染症予防</p> <p>感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)</p>	<p>マニュアルがあり実行している。インフルエンザの予防接種は、利用者・職員共に流行前にほぼ全員が受け予防に努めている。</p>		<p>今後も継続していきたい。</p>
79	<p>食材の管理</p> <p>食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。</p>	<p>新鮮な食材の使用と管理、調理者の手洗いの励行と布巾・まな板などの調理器具の消毒を毎日行い、予防に努めている。</p>		<p>今後も食中毒の予防に努めていきたい。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1) 居心地のよい環境づくり			
80 安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	玄関まわりや建物の周囲に花を植え家庭的な雰囲気づくりの配慮をしている。		外出から戻ったときに、馴染みの場所に帰ってきたという安堵感をもってもらえるように、今後も工夫していきたい。
81 居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレなどがいづれも家庭的な雰囲気を有している。		一日の流れに合わせて利用者の動線に沿った共有空間の配慮がなされているかを点検していきたい。
82 共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、一人になれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	利用者の状況に合わせて場所作りを工夫している。		思い思いに過せたり、お互いに距離をもって過ごせる場所を用意して利用者が選べる環境づくりに取り組んでいきたい。
83 居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使いたれたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	使い慣れた物を置いており、一人一人の好みを活かしている。		持ち込み品等の数にとらわれず、一人ひとりについてその人らしい環境づくりに取り組んでいきたい。
84 換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないように配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。	掃除の時には、窓を開け換気を十分に行っている。温度計・湿度計を取り付け温度、湿度調節に配慮している。冬季間は加湿器を利用している。		利用者一人ひとりの状態や反応をみながら、自然環境に近い換気・空気管理に更に努めていきたい。
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
85 身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	安全かつできるだけ自立した生活を送れるようにするため設備や工夫がある。		職員が利用者の状態を把握して、利用者個々に合わせた危険防止、本人の力を引き出す工夫に取り組んでいきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
86 わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。	夜間はトイレ、居室が分かるようにスポットライトで照らし場所の混乱や失敗がないよう工夫している。		場所間違いや場所がわからないという不安をかかえている利用者の状態を見極め、場所がわかるような環境づくりに更に取り組んでいきたい。
87 建物の外回りや空間の活用 建物の外回りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。	花を植えたり、畑を作ったり活動できるように活かしている。玄関の横にベンチを設置し、外出は無理な利用者でも建物の周囲で戸外で過す時間をつくりだせるようにしている。		今後も継続していきたい。

. サービスの成果に関する項目	
項目	取り組みの成果
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる <input type="radio"/> ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある <input type="radio"/> 毎日ある 数日に1回程度ある たまにある ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている <input type="radio"/> ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿が見られている <input type="radio"/> ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている <input type="radio"/> ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい <input type="radio"/> 利用者の1 / 3くらい ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている <input type="radio"/> ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている <input type="radio"/> ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています <input type="radio"/> ほぼ全ての家族 家族の2 / 3くらい 家族の1 / 3くらい ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている <input type="radio"/> ほぼ毎日のように <input type="radio"/> 数日に1回程度 <input type="radio"/> たまに ほとんどない

サービスの成果に関する項目		
	項目	取り組みの成果
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている。	<input type="radio"/> 大いに増えている <input type="radio"/> 少しずつ増えている <input type="radio"/> あまり増えていない <input type="radio"/> 全くいない
98	職員は、生き生きと働いている	<input type="radio"/> ほぼ全ての職員が 職員の2/3くらいが 職員の1/3くらいが ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> ほぼ全ての家族等が 家族等の2/3くらいが 家族等の1/3くらいが ほとんどいない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(日々の実践の中で事業所として力を入れて取り組んでいる点・アピールしたい点等を自由記載)